# 定例自然観察会実施報告書　　６班松本直司

実施日　：　２０２２年１月９日(日)
実施地　：　太山寺　北山
テーマ　：　神戸市唯一の原生林を観尽くす　識り尽くす

集　合　：　太山寺山 １０時
コース　：　山門～北山入口～三十三観音石仏沿い～頂上～東斜面を下る～北山入口～
　　伊川摩崖仏～山門(解散)
解　散　：　１４時

観察会参加者数　：　ビジター７２名　会員３１名　総数１０３名

班体制　：　１班安岡リーダー　２班望月リーダー　３班東條リーダー
　　４班松本ダーリー　５班(会員班)吉野リーダー

**観察会内容**(４班をモデルに)　：　ほぼ２年ぶりに開催された定例自然観察会ということもあってか７２名というビジターの参加があった。
会員を含めると１００名を超す参加者であった。
ここ太山寺は貴重な原生林を観ることができるコースであり、これまでも参加者の多いコースであった。
観察会のテーマも原生林をじっくりと観てもらい、原生林と呼ばれる森の特徴をしっかりと識ってもらうことである。
個々の木や草の説明よりも原生林を識ってもらうことを最重要課題とした。
そのため６班内の下見は５回を重ね、それ以外にも個人的に下見が繰り返された。
まず、北山に入る手前で、北山と背後にある里山(二次林の山)との外観の違いを観てもらい、なぜこのような違いが生まれたのかを説明した。

北山の入口に来ると三十三観音の石仏が見られる。
原生林を語る上で寺自体のその存在も重要であるが、この石仏群も原生林が生まれ今日まで残されてきた大きな要因であることを物語っている。
それは日本人の自然に対する信仰心、畏敬の念という要素を抜きには考えられないからである。神や仏がまつられる山に入り、木や草を収奪することを人々は許さなかったのである。
いよいよ森の中に入っていくと、シイノキの大木が林立する昼なおも薄暗い空間が広がる。

皆無とは言わないが落葉樹のない見事に常緑樹の森である。
さきほど外から見た北山はまるでブロッコリーをぎっしりと並べたような山容であったが中に入ってみると広々としたドーム状の空間が広がっていることに驚かされる。

まずドームの天井が高いこと。それはすべてが高木であるためである。
天井に至るまでの空間が広々としていること。それはそれぞれの高木の幹の途中にほとんど枝葉がないためである。そしていわゆる中低木もわずかしか見あたらない。
シイノキの幼木は草程度の高さにしか成長しておらず、地上３０ｃｍから上２０ｍまでの間に視野を遮るものがほとんどない。
また樹冠には美しい模様が描かれている。隣り合う木の枝と枝の間にはほぼ均等に隙間ができている。
それが思わず感嘆の声を上げてしまうほどの美しさを呈しているのである。

なぜこのようなドーム状の空間が生まれ、美しい樹冠の模様が見られるのかの説明をした。
これで原生林の成り立ちや特徴などの説明を終え、ゆっくりと頂上へ向かいながら目につく個々の植物の説明を行った。
頂上近くの堀切では竹内さんによる神戸層群、花崗岩の露頭についての解説をしてもらう。
この堀切から頂上にかけては徐々に原生林の姿が失われ、森は二次林の様相を呈するようになってくる。
頂上でいったん休憩。昼食とする。

昼食後は東側の斜面をおりていく。
この斜面は見事に二次林の森となっている。
これはおそらく北山のふもとに住む人々が薪炭を求めて山に入り手当たり次第にシイノキを伐採したためであろう。
それを物語るのがここに生えている木は圧倒的に落葉樹でしかもほとんどが株立ちしているという光景である。

生活のためふもとの人々はやむなく収奪を繰り返してきたのではないだろうか。
寺の位置からするとちょうど東斜面は裏にあたるため、人々の罪悪感もやや薄らいでいたかもしれず、寺も見て見ぬふりをしていたのかもしれない。
斜面を降りきり水平道に出る。この道は南から西へ山腹を巻く道であるが、道の

両側は非常に急峻な斜面となっている。
そこにほぼ純林と言えるほどのウバメガシが露出した岩にへばりつくようにびっしりと生えている。ほぼ他の木を目にすることができない。

なぜこのような極端な植生が生まれたのか。この急斜面に答えがある。
急斜面に雨が降る。雨水はすごいスピードで斜面を下る。その時表面の土を共に流し落としてしまう。それが何年間も繰り返されると一切腐葉土のたまらないまったく栄養のない土あるいは岩だけが残される。
そこではほぼどんな植物も生きていけない。ところがウバメガシだけはこんな環境でも生きていくことができた。
植物は大きく２つの分類に分けることができる。
ひとつは非常に競争力に優れたもの。もう一つは非常に適応力に優れたもの。
競争力に優れた木の一つがシイノキであり、一方適応力に優れた木がウバメガシである。
ウバメガシ林もある意味での原生林(極相林)であると言える。
太山寺ではこの両方を見ることができる貴重な観察地である。
そして二次林もあり、同時に３者を比較しながら観て歩ける貴重な観察地である。

出発前に竹内さんに太山寺の地質、地層について簡単に説明してもらった。
つづいて中島さんに太山寺の歴史について説明してもらった。
最後に伊川の岸壁に彫られた摩崖仏を見る。